

【資料（史料翻刻）】

## 原耕関連文書（二）

—原耕への弔文—

福田 忠 弘

一 序並びに解題

二【資料一】 原耕への弔文（二十四通）

三【資料二】 徳富蘇峰による撰文

### 一 序並びに解題

原耕は、一九三三（昭和八）年八月三日、蘭領東印度のアンボンで漁業基地建設中にマラリヤに罹って客死した<sup>1</sup>。享年五十七才だった。原は生前から、アンボンの旧砲台跡地に墓地を準備していたため、遺骨の一部はそこに埋葬された<sup>2</sup>。原の遺骨が日本に届けられたのは、九月三日のことであつた。

キーワード 原耕 南洋漁場開拓 インドネシア（蘭領東印度） 鯉漁

1 原耕のアンボンにおける事業には、外務省、拓務省、農林省、三菱商事などが関与していた。原死去の報は、在スラバヤの領事姉齒準平にも知らされた。姉齒による原の事業に対する評価や、各省の対応などについては、拙稿「南方漁場開拓者原耕のアンボンにおける漁業基地建設計画（昭和二年～八年）」、『簡経論叢』（鹿児島県立短期大学、第六十二号、二〇一二年を参照のこと）。

2 この墓は、かなり荒廃してしまっているようだが現在でも存在している。アンボンにおける原耕の墓は、一九七四年に一度改修されている。この時の経緯および写真については、川上善九郎『南興水産の足跡』（南水会、一九九四年）、一八一～二頁。また改修後の写真については、村井吉敬、藤林泰編『ヌサンタラ航海記』（リブポート、一九九四年）、百五十五頁でも紹介されている。

これを受けて鹿児島県枕崎町(現在の枕崎市)では、九月十六日に枕崎町葬を行うことを決定した。葬儀の案内は、『東京朝日新聞』(一九三三年九月十四日付四面)にも掲載された。その文面は、「衆議院議員従六位原耕儀 南洋ニ於テ漁業開拓中マラリヤに罹リ八月三日死去仕候間謹テ生前ノ御厚誼ヲ拝謝シ右謹告仕候 追而九月三日遺骨到着ニ付来ル十六日午後三時ヨリ枕崎小学校ニ於テ枕崎町葬ヲ以テ佛式ニ依リ葬儀相營可申候尚遺骨ノ一部ハ個人ノ素志ニヨリアンボイナ漁業根拠地和蘭砲台跡ニ埋葬致候」である。そして息子の収、兄の愛之進の他に、枕崎町長の今給黎誠吾、友人として児玉實良(鹿児島新聞社長)、樺山資英(貴族院議員)、総代として床次竹二郎(立憲政友会顧問)、鈴木喜三郎(立憲政友会総裁)が名を連ねた。

十六日に行われた枕崎町葬には、原の幅広い活躍を示すように、政界、医師界、水産界、マスコミ、地元の青年団などから弔文や弔詞が寄せられた。【資料二】に翻刻したものは、この時の弔文(弔詞を除く)二十四通で、遺族のもとに保管されていたものである。

いずれの弔文も貴重なものだが、このなかでも特に興味深いのは、資料⑩の和田儀太郎からの弔文である。和田は当時、南洋協会囑託として蘭領東印度のアロー島に滞在していた。和田と原は、アロー島で一度しか会っていないが、原死去の報を受けて、鹿児島県庁を通じて弔文を送付してきた。その弔文の中には、原のアロー島での様子や、和田が原に感じた強烈な印象が言及され、蘭領東印度での原の様子を知る貴重な資料となっている。そして、原の事業が現地で活動する日本人にどのような印象を与えたのかも伺い知ることができる。

また、原が医院を開業していた地元枕崎の青年団からの弔文⑪によると、原は、貧困世帯出身の学業成績優秀な学生に対して資金援助していたことが述べられている。こうした側面は、これまでほとんど知られていない。原は、現在の鹿児島県立南薩工業高等学校の造船科を枕崎に誘致したことで知られるが、個人的にも、教育、人材育成に力を

入れていたことを示す資料となっている。また、海軍と原の事業に関係があったことが記されていることも注目に値するものである。

原の町葬後、遺体はさらに二つに分けられ、一つは先祖代々の墓がある現在の鹿児島県南さつま市坊津町の墓地へ、もう一つは枕崎の松之尾墓地に納められた。

坊津の原の墓については後日談がある。一九四一（昭和十六）年八月、徳富蘇峰が原に対して撰文を寄せ、その文字が墓石に刻まれることになった。【資料二】は原の墓石に刻まれた徳富蘇峰の撰文を翻刻したものである。現在のところ、なぜ原死後八年が経過した一九四一年に、徳富が原に撰文を寄せたのか、その経緯は分かっていない。現在の枕崎市松之尾公園には、原の胸像が建てられている。その胸像の横には、徳富蘇峰による撰文が刻まれた石碑が建設されているが、この碑文は、坊津町の原の墓石に刻まれたものの一部である。その一部とは、「惟ふに我国古来図南の長策を唱ふるもの尠からず然も此を実行し遠く赤道以南に漁船隊を進むるものは実に原耕君を以って嚆矢となす君の功やまことに偉大なりといふべし」である。

本稿では、原のご遺族の了解を得て、【資料一】の弔文二十四通、【資料二】として徳富蘇峰による撰文の全文を翻刻するものである。

この貴重な資料の公表を快くご許可いただいた、原拓氏に深甚の謝意を表したい。

番号	氏 名	肩 書
①	鈴木喜三郎	立憲政友会総裁
②	床次竹二郎	立憲政友会顧問
③	井上知治	貴族院衆議院兩院議員代表
④	市村慶三	鹿児島県知事
⑤	今給黎誠吾	枕崎町長
⑥	貴島勇熊	枕崎町会議員総代
⑦	長井直恵	西南方村長
⑧	本 山 壽	川邊郡各町村長代表
⑨	矢吹正夫	鹿児島県水産試験場長
⑩	今 藤 繁	鹿児島県水産会長
⑪	森八代吉	西南方村坊泊鯉船主組合
⑫	西盛之進	鹿児島県医師会長

⑬	萩原末彦	川辺郡医師会長
⑭	尾辻清久	枕崎町医師会総代
⑮	楠本長三郎	大阪帝国大学医学部学友会会長
⑯	樋渡吉治	大阪帝国大学医学部学友会幹事
⑰	児玉實良	鹿児島新聞社長
⑱	藤武喜助	鹿児島朝日新聞社長
⑲	丸谷良一	枕崎町青年団代表
⑳	和田儀太郎	南洋協会調査 嘱託(アロ―島在住)
㉑	鹿島國治	西南方村泊区民総代
㉒	入佐香一	更正会 総代
㉓	記載なし	鹿児島高等農林学校凶南会
㉔	樺山新介	記載なし

## 二【資料】 原耕への弔文

### ①立憲政友会総裁 鈴木喜三郎

弔詞

衆議院議員原耕君逝ク哀シイ哉君ハ純正國ヲ懷イ、熱誠黨ヲ愛シ我黨特異ノ士也、議員タルコト二期敢テ長キニアラザルモ、確力ニ顕著ナル存在ヲ示シ最モ望ミヲ將來屬セリ今忽チ訃報ニ接ス憂心擣ツガ如シ、謹ンデ弔意ヲ君ノ靈前に表明スト云爾

昭和八年九月十六日

立憲政友會総裁 鈴木喜三郎

### ②立憲政友会顧問 床次竹二郎

弔詞

衆議院議員原耕君病ヲ獲テ南洋ニ客死セリ哀シイ哉

君ハ資性剛毅ニシテ救國濟民ヲ以テ志トナシ米鹽ノ乏シキヲ意トセズシテ家國ノ艱難ヲ憂フ、先憂ノ士也實ニ我黨出色ノ人材トナス、擧ケラレテ衆議院議員トナルヤ能ク君國ニ盡クシ又タ我黨ニ盡セリ、而シテ君ノ志ハ南洋ニ在リ、口之ヲ稱ヘ、身之ヲ實行ス、本年君ガ南洋行ヲ決スルヤ同志相聚リテ祖道ノ宴ヲ三州俱樂部ニ開ク予ハ君ヲ激勵シテ骨ヲ南洋ノ魚腹ニ葬ラルヽノ覺悟ヲ以テ邁進セヨト鼓舞シタルガ言偶マ識ヲナシタルハ恨事也、君亦タ骨ヲ南洋ノ地ニ埋ム可シト遺言セリト聴クガ實際分骨シテ其一半ハ奔蒼タル南溟ノ椰子樹蔭ノ君ガ墓田ニ葬レリ豈悲壯ニアラズヤ

今や君ノ令閨並ニ令弟ハ相携ヘテ彼地ニ渡リ君ガ未ダ竟エザルノ志ヲ繼ガントス、是レ亦タ悲痛ニシテ壯絶也、嗚呼君為スアルノ資ヲ以テ為スアルノ時ニ死ス、實ニ國家ノ損失也

本日町葬ノ禮ヲ以テ君ノ遺骨ノ葬ラル、ニ際シ謹ンデ予ガ罔極ノ哀シミヲ君ノ英靈ニ表明ス、

庶幾クハ英靈照鑑シテ南洋漁業ノ鎮護ノ神タレヨ敢テ弔ス

昭和八年九月 日

立憲政友會顧問 床波竹次郎

③貴族院衆議院両院議員代表 井上知治

弔詞

立憲政友會所屬衆議院議員原耕君南洋ニ客死シ越テ月餘町葬ノ禮ヲ以テ遺骨ヲ葬ラル哀シイ哉、君資性豪宕年壯ニシテ政治ニ奔走シ、其志常ニ君國ニ在リ、醫ヲ以テ業トナスモ疾ヲ醫スルヲ以テ足レリトセズ更ニ家國民生ノ艱苦ヲ醫スルヲ以テ志トナセリ所謂上醫也選バレテ代議士トナルコト二回、熱誠ノ迸バシル處能ク選良ノ本務ヲ盡クシ人ノ急ニ赴キ難ヲ解キ一片稜々ノ骨頭ヲ有シタリ、而シテ南洋進展ハ君ノ持論ニシテ平生之レヲ高調シ亦タ能ク之ヲ實踐セリ嗚呼椰子繁リ黒潮躍ル蘭領アンボイナ、ハ君ガ憧憬ノ土地ニシテ亦タ實ニ君ノ終焉ノ聖域トナレリ君曾ツテアンボイナニ墓田ヲ相シテ自己ノ墳墓トナセルガ此事遂ニ識ヲナセリ、嗚呼茫々タル旻天何ゾ我原君ヲ奪フノ速カナルヤ君ハ大業未ダ成ラズシテ身先ヅ死シ空しく風濤渺漫ノ一島ニ君ガ末死ノ英魄ヲ埋メントハ、然レドモ青山骨ヲ埋ルモ名ヲ埋メズ苟モ政治家身ヲ以テ國ニ許ス、其死其生固ヨリ論スルニ足ラズ唯ダ時局重大、我黨大ニ為スベキノ時ニ際シ、此ノ僚友ヲ失ハントハ、是吾黨ノ損失ニシテ抑モ亦吾等ノ悲痛事也茲ニ葬送ニ際シ棺前ニ拜跪シテ痛哭長歎息ム能ハ

ズ嗚呼哀シイ哉謹ミテ弔ス

昭和八年九月 日

客白

鹿児島縣選出 貴衆両院議員代表 井上知治

#### ④鹿児島県知事 市村慶三

鹿児島縣知事從四位勲三等市村慶三謹ミテ故衆議院議員從六位原耕君ノ靈ニ告ク

君資性剛毅果斷氣宇雄大夙ニ濟世ノ志ヲ懷キ常ニ公共ノ事業ニ賛畫シ、産業、教育ノ振興、經濟金融ノ向上等地方開發ニ貢獻セル所頗ル多シ、就中我力水産ノ宗タル鰹並ニ鯖業ノ開發ニ關シテハ君力畢生ノ心血ヲ傾注セシ所ニシテ具ニ辛苦ヲ嘗メ研鑽倦マス、或ハ漁船漁具ノ考案ヲ促シ或ハ漁撈製造ノ改善ヲ計リ斯界ニ寄與スル所亦尠シトセス

近時本邦漁業力漸次近海漁撈ヨリ轉シテ遠洋漁業ニ進出スヘキ趨勢ヲ察シ且ツ南洋漁業ノ開發進展ノ最モ有利ナルヲ看取シ自ラ巨費ヲ投シ陰ヲ冒シ幾度力漁船ヲ率ヒテ遠ク南洋ニ航シ大ニ我力南洋諸島並ニフィリッピン、蘭領諸島ノ新漁場ヲ開拓シ根拠地ヲ蘭領アンボイナニ相シ拮据經營、基礎既ニ成リ將ニ大ニナスアラントスルノ時、卒然トシテ逝ク痛恨何ソ堪ヘン嗚呼悲哉

今や我國内外ノ情勢ハ益々南洋開拓ノ急ヲ告ク、君ハ實ニ其ノ先驅者トシテ活躍セルモノニシテ將來ニ期待スル所愈々大ナリシニ君ノ不幸ニ遭フ誰力之ヲ惜マサルモノアラシヤ、然リト雖モ生前ノ功績顯著ナリシニ對シ特旨ヲ以テ位記ヲ追賜セラル此ノ光榮君ノ靈亦以テ冥スヘキナリ

本日茲ニ町葬ノ儀ニ列リ君ノ偉大ナル業績ヲ回想シ深甚ノ敬意ヲ捧ゲ謹ミテ哀悼ノ誠意ヲ表ス冀クハ享ケヨ

⑤枕崎町長 今給黎誠吾

維時昭和八年九月十六日謹ミテ故衆議院議員從六位原耕君ノ靈ニ告グ君資性剛毅氣宇豪<sup>破</sup>□□□<sup>損</sup>畧アリ夙ニ醫術ニ志シテ起死回生ノ實ヲ擧ゲ又推サレテ郡醫師會長日本醫師會代議員タリ其本邦醫事衛生ニ貢獻セルノ功績鮮少ナラザルモノアリシモ君ノ素志ハ寧ロ經世濟民ノ事ニ在リ地方産業ノ開發ト□□□<sup>破</sup>トハ最モ力ヲ盡ス所ニシテ多年銀行會社ノ重役トシテ各々其樞機ニ參與シ又選バレテ町村會議員トナリ地方自治體ノ發展ニ努ムル所甚大ナルモノアリ後又其人格識見ハ認メラレテ衆議院議員ノ榮冠ヲ贏チ得再選□□□<sup>破</sup>家の二貢獻セル所又枚擧ニ暇ナキモノアリ特ニ近年渾身ノ努力ヲ傾投セルハ南洋漁業ノ開發ニ在リ我國ノ現狀ニ顧ミ南洋無限ノ寶庫ヲ開發スルハ獨リ國家百年ノ大計ナルノミナラズ實ニ彼我ノ利益ヲ進メ世界人類ニ貢獻スル所以ナルヲ確信シ此大使命ヲ果スベク扁々タル輕舟□□□<sup>破</sup>萬里ノ波濤ヲ踏破シ屢々南洋ニ航シテ前人未幾ノ漁場ヲ探検シテ得ル所アリ其苦心ハ遂ニ酬ヒラレテ政府ノ認ムル所トナリ或ハ國庫ノ補助トナリ或ハ各方面ノ囑託トナリ其雄志ヲ助成スルノ機運漸ク濃厚ナルモノアリ茲ニ多年ノ抱負經綸ヲ實現スベク三隻ノ漁船ヲ艤シ百名□□□<sup>破</sup>率ヒ雄心勃勃々蹶然トシテ蒼茫數千里ノ南洋ヲ目標ニ故國ヲ解纜セシハ實ニ昨年十二月初旬ニ在リ再来一路平安蘭領東印度アンボイナニ着港豫定ノ計劃ハ日夜進メラレ事業將ニ其緒ニ就カントスルノ時豈ニ圖ランヤ君ハ病魔ノ冒ス所トナリ遂ニ起タズ溘焉トシテ空シク南洋ノ異域ニ□□□<sup>破</sup>天道果シテ是呼非呼旧臘萬歲聲裡ニ枕崎港頭ニ君ノ勇姿ヲ送ルノ時誰力又今日此事アルヲ豫期センヤ嗚呼天何ゾ此英雄兒ヲ奪フノ速ナル万感交々到リテ吾人又言ハントスル所ヲ知ラザルナリ然レドモ生アルモノハ死アリ天命ハ又如何トモスベカラズ君ガ事業ハ猶半途ニ在ルモ其多年苦心經營ノ功績ハ廣ク天下萬民ノ認メテ推賞<sup>マ</sup>惜力ザルモノアリ政府官憲又誠意其遠大ナル計劃ノ遂行ヲ勸奨セラレ遺族同志ハ奮然悲壯ノ決意ヲ固メ其遺業ヲ續イデ邁進シ誓テ遺志ヲ遂ゲテ君ガ靈ニ酬ヒントスルノ意氣壯烈ナルモノアリ而モ死生ヲ賭シ萬難排シ國家ノ為ニ奮闘貢獻セル君ノ偉大ナル功績ハ畏クモ

天聽ニ達シ叙位ノ恩命ニ浴ス君又死シテ餘榮アリ宜シク瞑スベキナリ茲ニ枕崎町葬ヲ以テ君ノ遺骸ヲ送ルニ当リ哀悼ノ誠悃ヲ布キテ以テ吊詞トス希クハ来リ享ケヨ

枕崎町長 今給黎誠吾

⑥枕崎町會議員總代 貴島勇熊

弔辭

衆議院議員從六位原耕氏忽焉トシテ逝ク君ハ雄圖ヲ懷キテ南洋ニ航シ圖ラズモ病ヲ得テ彼ノ地ニ没ス寔ニ痛惜ニ堪エザル所ナリ、君ハ衆望ヲ負ヒテ衆議院議員タルコト二回ニ及ビ教育産業ニ力ヲ竭シ其ノ功績誠ニ大ナルモノアリ殊ニ南洋發展ハ君畢生ノ大業ナリキ 蓋フニ南洋漁業タルヤ百年ノ大計ニシテ我ガ國産業ノ將來ニ影響スル所大ナリ 凡ソ國策ヲ樹立シ事業ヲ創メ國利民福ヲ圖ルハ國家ノ大事ニシテ容易ナル業ニアラズ國家ニシテ然リ君一私人ノ力ヲ以テ之ヲ敢行セントス其ノ困難ナル思フベシサレバアラユル誹謗ヲ顧ミズ我ヲ忘レ家ヲ忘レ私材ヲ吝マズ私欲ヲ離レヒタスラ國ノ發展ヲ策ス是レ實ニ英傑大西郷ノ心境ニ比スベシ彼レ城山ノ露ト消エ我レ南洋ノ土ト化ス傑士ノ最後古今相通ズルモノアリ、然リト雖君ノ業績今や漸ク挙リテ南洋漁業ノ發展ハ期シテ待ツベキモノアリヤガテ南洋ノ地ニ我ガ光輝國旗ノ飄ラム乎アンボイナ湾頭君ノ遺業ハ永久ニ輝キテ君ノ靈ヲ慰メム願ハクハ永久ニ我ガ同胞ヲ守レ謹ミニテ撫辭ヲ述ブ

昭和八年九月十六日

枕崎町々會議員總代 貴島勇熊

⑦ 西南方村長 長井直恵

維時昭和八年九月十六日干茲柩前二額キ虔ンテ香ヲ焼キ故衆議院議員從六位原耕君ノ靈ニ告ク君資性豪邁氣宇闊達志望遠大幼ニシテ坊泊小學ニ學ビ夙ニ出藍ノ譽アリ出デ、大阪醫專ニ入り業ヲ了ヘテ居ヲ枕崎ニトシ只管刀圭ノ道ニ勵ミ郡醫師會會長及ビ大日本醫師會鹿児島懸選出代議員トナリ令名噴々タリ傍ラ町ノ發展ニ盡セシ功亦渺カラス雖然君ハ醫ヲ以テ生ヲ終フルヲ足レリトセズ進ンデ漁業ヲ營ミ水産ノ開發ニ努メ尚ホ政治界ニ進出シ衆議院議員タルコト前後二回此ノ間ニ於テ南洋ノ寶庫ヲ開拓シテ行詰レル我國ノ水産界ヲシテ大ニ發展セシメントノ大志ヲ懷キ自己經營ノ艱漁船ヲ以テ先人未開ノ航路ヲ取り萬里ノ波濤ヲ蹴破シテ蘭領アンボyna中心トシテ其ノ附近ノ漁事及海陸ノ調査研究ニ從事スルコト數回今着々經營進捗ノ途ニアルノ際不幸「マラリヤ」ニ犯力サレ八月三日溘焉トシテ逝去セラル噫悲哉此ノ報ニ接スルヤ闔閭驚愕ト悲哀ノ極ニ達シ朝野亦海ノ偉人ヲ亡ヘルヲ痛惜セリ功ニヨリ特旨ヲ以テ從六位ニ叙セラル君幸ニ瞑スベキナリ噫悲哉 君嘗テ歌フテ曰ク「日本よい國南をうけて南洋風がそそよと」ト遠大ノ志望今ニシテ懷ヘバ淚潸然タルモノアリ又曰ク「予ガ死所ハ南洋ニアリ」ト雖然事業半ハニシテ逝ク遺憾窮リナカリシナランモ我帝國ノ水産史上ニ特筆大書セラレ其ノ遺績ハ久遠ニ朽チサルベシ君亦幸ニ瞑スベキナリ噫、悲哉今ヤ幽明界ヲ異ニシ逝ク者ハ遂ニ還ラズ飲泣言フ能ハズ噫、悲哉庶幾在天ノ靈來リ饗ケヨ

昭和八年九月十六日

西南方村長 長井直恵

⑧ 川邊郡各町村長代表 本山壽 (萬世町長)

## 吊詞

故衆議院議員從六位原耕氏ノ靈ニ告ク君ハ資性豪毅果斷氣宇雄大夙ニ醫業ニ志シ明治三十五年大阪高等醫學校卒業以來醫術界ニ盡ス所顯著ナリシモ君ノ素志ハ寧ロ治國濟世ノ事ニアリ常ニ家事ヲ犠牲ニシテ幾多公共事業ニ盡瘁シ其殖産興業金融經濟教育其他地方開發ニ貢獻スル所甚ダ大ニシテ南洋開拓ニハ特ニ絶大ノ努力ヲ拂ヒ其功績顯著ナルモアルハ衆ノ認ムル所尚將來君ノ力ニ俟ツヘキモアリシニ蘭領東印度アンボイナ島ニ於テ漁業經營中マラリアニ罹リ八月三日孤島ニ斃ル嗟悲哉其死ニ臨ミ己力遺骨ノ一部ヲ此ノ地ニ葬レノ一言ノ如キ恰カモ彼ノセシルローヅノ南阿弗利加ニ於ケル遺言ニ髣髴タリ其雄圖推賞讃嘆措ク能ハサルナリ君死スト雖モ君ノ靈ハ將來アンボイナニアリテ漁業根拠地ヲ守護セン君以テ瞑スベキナリ爰ニ謹ミテ哀悼ノ誠意ヲ表シ以テ吊詞トス

昭和八年九月十六日

川邊郡各町村長 代表 萬世町長本山壽

## ⑨鹿兒島県水産試験場長 矢吹正夫

### 弔詞

本懸水産界ノ先覺者原耕君雄志ヲ抱イテ蘭領アンボイナノ客地ニ病ミ不幸急逝セラル豈痛惜ニ堪フヘケンヤ不肖不幸ニシテ親シク君ノ風貌ヲ仰クノ機ナカリシモ大先輩トシテノ君ノ尊名ヲ知り其ノ高邁ナル人格ヲ憧憬スルヤ久シ今ヤ職ヲ本懸ニ奉シ將ニ大ニ君ノ教ヲ乞ハントスルノ時溘然トシテ長逝セラル誠ニ悲哉

君資性豪邁勇往果決遂ケスンハ止マサルノ概アリ始メ専ラ醫業ニ従事セラレシモ後南支南洋ニ於ケル水産業ノ重要性ニ着眼セラレ大正十三年自カヲ遠洋漁船ヲ指揮シテ新漁場ヲ探檢スルト共ニ乗組員ノ訓練ニ専念セラレ遂ニ昭和二

年薩南ノ健兒百余名ヲ率テヒリツン<sup>マ</sup>群島、西カロリン群島ヲ經テ遠ク赤道ヲ超ヘ蘭領東印度諸島ニ亘ル大調査ヲ敢行シ茲ニ南洋漁場經營ノ根本方針ヲ確立セラレ昭和四年以來蘭領アンボイナニ本據ヲ定メ業績大ニ揚カラントスルニ際シ忽然トシテ長逝セラル誠ニ悲哉今ヤ同方面ニ於ケル水産界ハ頗ル多事多端君ノ如キ有力ナル指導者ヲ失フハ邦家ノタメ誠ニ痛惜ニ堪ヘス

然レトモ君ノ訃報天聽ニ達スルヤ生前ノ功績ヲ嘉ミセラレ特ニ二位記ヲ追贈セラル君又死シテ余榮アリト謂フヘシアンボイナノ秋風椰子ノ梢ヲ拂フ處バンダ海ノ波静力ニ岸ヲ洗フ邊君ノ形骸ハ黃壤ト化シ去ルトモ君力薰陶セル幾多ノ健兒ハ君力遺心ヲ繼イテ之力達成ニ努メン冀ハ在天ノ靈照鑑アラニコトヲ謹ミテ弔詞ヲ述フ

昭和八年九月一六日

鹿兒島懸水産試驗場長 矢吹正夫

⑩鹿兒島県水産会長 今藤繁

故衆議院議員從六位原耕君ノ英灵ニ白ス君素醫ヲ以テ立チ常ニ郷土ノ信望ヲ雙肩ニ擔ハレシモ四圍ノ環境ニ覺醒セラレ率先シテ南洋漁業ノ開拓ニ志シ南洋漁業ノ開拓ニ志シ台湾比列賓<sup>マ</sup>ヨリ更ニ昭和二年南洋セレベス島ニ躍進シ爾來幾多ノ調査研究ノ結果先述ノ曙光ヲ認メ昨年十一月三度ビ陣容整ヘ漁船三隻百餘人ヲ引率シ根拠地島「アンボイナ」ニ航シ各種ノ設計計畫其ノ緒ニ就キ理想實現ノ刹那ニ暨ノ冒ス所トナリ湍焉他界セラル噫々悲哉君力心事ヲ追想シテ眞ニ哀悼痛惜ニ堪ヘサルモノアリト雖其ノ功績偉勲ハ赫々トシテ永久没スル事能ハス惟フニ君ガ使命トセル所タルヤ踟躇タル本懸水産業ノ開發進展ニ止ラス我國南方漁業開拓啓發ニヨリテ其洞見卓識洵ニ驚歎スル所ニシテ其南洋開拓ト國權伸長ニ関シテハ朝野齊シク期待セル所ナリシモ忽然君ヲ失フハ獨リ郷土本懸ノミナラス國家ノ損失蓋シ甚大ナル

モノアリ今同志ノ土君ガ素志ヲ慕ヒ其ノ遺業ヲ繼カレントス冀クハ英靈永エニ加護アラン事ヲ聊カ蕪辭ヲ述ヘテ弔詞ト為ス

昭和八年九月十六日

鹿児島懸水産會長 今藤繁

⑪西南方村坊泊鯉船主組合 森八代吉

弔辭

謹ンデ故衆議院議員從六位原耕氏ノ御靈前ニ哀悼ノ辭ヲ捧ゲントス

氏ハ生ヲ西南方村泊浦ニ享ケ夙ニ救世済民ノ志厚ク學ヲ大阪高等醫學專門學校ニ修メ早ク醫業家トシテノ奮勵努力スルコト目覺シク後鄉黨ノ與望ヲ一身ニ擔ヒ衆議院議員トシテ當選スルコト二回ニ及ビ其間銳意非常時日本國運ノ進展ニ盡瘁スルトコロ實ニ甚大ナルモノアリ殊ニ氏ハ大局ニ着眼セラレ我力國ノ經濟國難漁村疲弊ヲ救済スベク之ガ隆昌繁榮ニ專念努メ止マス小ニシテハ薩南一帶農漁村ノ疲弊救済ニ資スベク沖繩地方ノ漁場發見ヲナシ窮シタル漁民ヲ開拓スルコト一再ナラズ且ツ遠ク蘭領東印度ノ地ニ漁場開拓ヲ試ミ今や、我方國ガ聯盟脱退後ノ諸壓迫苦難ト戰ヒツツ諸般ノ施設整ヒ其ノ實績着々ト進歩シ斯界ニ一道ノ光明ト活氣トヲ來サントスルノトキ不幸病魔ノ犯ストコロトナリ業半ニシテ忽焉トシテ長逝セラレシハ惜ミテモ尚ホ余リアルトコロナリ嗚呼悲シイ哉

氏ハ實ニ性溫柔剛直ニシテ而モ雅量アリアンボイナノ地ニアルヤ自ラ率先シテ漁夫ト寢食勞苦ヲ共ニシ之ニ從フモノ恰モ早草ノ慈雨ニ接スルガ如ク敬慕ス。殊ニ氏ハ從來國家殖民政策ノ不振人心徒ラニ故郷ニ戀々トシテ骨ヲ埋ムルハタゞ先塋ノ地アルノミトナス如キ偏胸ナル大日本國民性ノ至ルトコロ移民政策ノ失敗セシヲ顧ミ骨ヲ埋ムルニ身ヲ以

テ範ヲ示サントシテ異邦萬里蘭領アンボイナ砲台跡ヲ瑩土トセラル、嗚呼氏ノ志タルヤ死シテナホ護國ノ鬼タラントスルニアルカ雄々シクモ悲シイ哉

氏ヤ又生前遺愛ノ一令息三令嬢アリ齡未ダ稚ク慈父ノ寵愛ヲ一身ニ享ケツ、成長セント希ヘ共今ハ之叶ハズシテ逝クコト何ゾ早カリシ此処ニ於テ遺妻遺児心地ヲ想フノ時誰レカ凋張胸ニ満チ暗淚潛トシテ下ルヲ禁ゼザランヤ幸ニ氏ノ遺志ヲ享ケテ其ノ業ニ餘映ヲ加ヘラレンコトヲ期ス願クハ靈ヨ瞑セラレヨ、茲ニ生前ノ功績ヲ稱ヘラレ枕崎町葬行ハルルニ當リ葬場ニ列シ靈前ニ對スレバ哀悼ノ情悲歎ノ淚迫リテ辞体ヲナサズ此処ニ西南方村鰹船主組合代表シテ微衷ヲ述ベテ弔辞トス願クバ靈ヨ來リテ享ケヨ

昭和八年九月十六日

西南方村坊泊鰹船主組合 代表者 森八代吉

⑫鹿兒島県医師会長 西盛之進

過くる八月四日飛電到り前日原耕君突如南洋に於て病死れらるゝ報す一讀して只だ驚き再讀三讀して熱淚滂沱禁する能はず嗚呼君遂に逝けるか身は百難の試練を経て健康金鉄の如く而して壯心胆斗の如き君として誰か病死を豫想せんや圖らざりき如露如電遽に長逝の悲報に接せんとは

君は南方郷泊村に生れ長して大阪醫學校に醫學を修め業成りて後枕崎に開業し刀圭の妙技を以て病患を治し廣く地方人士の寄頼を博し又た餘力を醫政方面に致し曾て郡醫師會長となり懸醫師會議員となり日本醫師會議員となり達識善謀正論堂々一躍して醫界の中心人物となれり更に政界に飛躍して衆議院議員に當選すること二期に及び國政に参劃して功勞多大なり君夙に漁業に興味を有し後日遂に南洋漁業の大策を樹て雄志を懷き險艱を排してして自ら漁夫を率ひ

漁船を艤して遙に南洋赤道の彼方に漁場を開拓し本邦南方發展の急先鋒となれり素より骨を埋む故郷の山を念とせず  
彼地に止まり銳意奮闘して計畫漸く其緒に就きしも未だ素志を大成するに至らずして易簣せらるゝこと邦家の爲め惜  
みても餘りあり君死せらるや其邦家に盡せる功勞天聽に達し從六位を追贈せらる死後の光榮大なりと云ふべし君は實  
に至誠純情の人其風格は万人の景迎する所なり邦家万民の爲に大計を立て自ら之を實行して一身一家を顧みず千苦万  
艱を犯して素念貫徹に邁進せらる眞に仁として勇あるもの君に於て之を見る、本日君の郷黨は町葬の禮を以て君の葬  
儀を施行せらるゝに當り盛葬に列して追懷思慕の念更に切なるものあり茲に懸下醫師會員一同に代り恭しく靈前に額  
づきて永遠の別を告げ敬んで哀悼の辭を呈す希くは英靈来り受け賜へ

昭和八年九月十六日

鹿兒島懸醫師會長 西盛之進

⑬ 川辺郡医師會長 萩原末彦

吊詞

君ハ我醫界ノ偉材ナリ容易ニ得ベカラザルノ傑士ナリ今忽然トシテ蘭領アンホイナニ於テ逝ク我等初メ其計ヲ聞キ半  
バ信ジ半バ疑ヒ其虚報ナルヲ希ヘリ我等ノ希望ハ空シクシテ愈々其眞ナルヲ知ルヤ痛惜哀悼熱淚滂沱天地爲メニ暗キ  
ヲ覺フ君ハ少ニシテ醫ヲ志シ笈ヲ京攝ノ間ニ負ヒ学成リ技熟シ郷里ニ歸ルヤ門前忽チ市ヲナシ治ヲ乞フモノ□至ス郷  
黨ノ信望一身ニ萃マリ推サレテ町會議員トナリ自治行政ニ貢獻シ選マレテ代議士タルコト二回侃々ノ議譁々ノ論能ク  
時弊ヲ匡救シ国家ノ進運ヲ助長セリ常ニ思ヘラク小醫ハ病ヲ治シ大醫ハ國ヲ醫スト遂ニ意ヲ決シテ家業ヲ夫人ニ託シ  
一葉ノ扁船ニ乗シ遠ク南溟ニ入り漁場ノ開発ニ從フ由來南洋ハ魚群ノ集マル処之ヲ漁シテ國家ノ富ヲ計ル偉丈夫ニア

ラズンバ企テ及ブ処ニアラザルナリ今ヤ志業未タ全ク成ラズシテ斃ルト雖モ幸ニシテ賢夫人ノアルアリ君ノ遺志ヲ紹ギ南洋ノ漁場ヲ開發シ國家最大ノ富源トナシ得ルハ瞭々乎トシテ火ヲ睹ル如シ君亦以テ瞑スベキナリ顧フニ君ハ我ガ川邊郡醫師會長トシテ誠意ヲ尽シテ其發展ヲ策シ獨特ノ敏腕ニヨリ醫師會今日ノ隆運ヲ来セリ我醫師會ノ君ニ負フ処實ニ多大ニシテ今日君ヲ失フ我醫師會ノ損失幾何ゾ以後誰カ君ニ代リテ我ガ醫師會ノ為メニ万丈ノ氣ヲ吐ク者ゾ之ヲ思ヒ彼ヲ思ヘバ感慨胸ニ迫マリ云フ処ヲ知ラス聊力蕪調ヲ述ベテ吊詞トナス

昭和八年九月拾六日

川邊郡醫師會長 從七位勲六等 萩原末彦

⑭枕崎町醫師會總代 尾辻清久

弔詞

衆議院議員從六位故原耕君ノ靈ニ告ゲ。

君ハ資性豪邁、仁術ヲ以テ立チ、名聲高シ、夙ニ經世ノ志厚ク、早クヨリ南洋漁場ノ開發ニ着眼シ、幾度カ萬里ノ波濤ヲ蹴ツテ寶庫ヲ探檢シ其國家の一大事業タルヲ確信スルヤ或ハ議會ニ於テ或ハ當局ニ夫々所信ヲ披瀝シテ計劃ノ樹立、目的ノ遂行ニ奔走シ愈々期熟スルニ及ビ自ラ千代丸三艘ヲ率テ絶海ノ孤島蘭領アンボynaニ航シ茲ニ根拠ヲ定メテ先ツ原村ノ建設ニ着手シ確固不拔ノ精神ト遠大ナル理想ヲ以テ今ヤ着々トシテ事業ノ進捗ヲ見ルニ至リ、國家郷黨多大ノ期待ヲ以テ齊シク其成功ヲ祈リヌ。

然ルニ圖ラザリキ一朝ニシテ病魔ノ犯ス所トナリ志業未ダ成ラズシテ遂ニ憧レノ地ニ逝カントハ、君ガ最後ノ心情察スルニ餘リアリ、嗚呼痛マシキ哉

顧ミレバ枕崎埠頭ニ君ノ壯擧ヲ送りシハ昨日ノ如ク其ノ勇姿尚眼前ニ髣髴タリ、然ルニ今ヤ幽冥境ヲ異ニシテ呼ベドモ答ヘズ、仰イデ天ニ訴フレバ天漠々俯シテ地ニ哭スレバ地黙々嗚呼悲シイ哉

君ガ仆報天聽ニ達スルヤ畏クモ生前ノ功勞ニヨリ從六位ヲ追贈セラレ郷黨亦茲ニ町葬ノ禮ヲ行ヒ、盛儀比ナシ、死スルモ尚ホ餘榮アリト言フベク以テ冥スルニ足ランカ、聊カ蕪辭ヲ陳ベテ弔詞トナス希クバ来リ承ケヨ。

昭和八年九月十六日

枕崎町醫師會 總代 尾辻清久

⑮大阪帝國大學醫學部學友會會長 楠本長三郎

弔辭

會員原耕氏不幸病魔ノ冒ス所トナリ溘焉トシテ逝去セラル洵ニ痛惜ニ堪ヘサルナリ氏ハ明治三十五年ノ卒業ニシテ爾來斯道ノタメニ貢獻セラレシノミナラス政治家トシテ將タマタ事業家トシテ活躍セラレ本會トシテ氏ノ將來ニ大ニ囑望セシニ悠チコノ計ニ接シ幽明境ヲ異ニス寔ニ悲愁哀痛ノ極ミナリ茲ニ大阪帝國大學學友會々員一同ヲ代表シテ謹ンテ哀悼ノ意ヲ表ス

昭和八年八月二十五日

大阪帝國大學醫學部學友會々員 楠本長三郎

⑯大阪帝國大學醫學部學友會幹事 樋渡吉治

謹而我母校同窓ノ先輩代議士原耕氏ノ靈前ニ弔ス君ハ天性豪放ニシテ不羈果敢進取ノ氣魄ニ富ミ夙ニ仁術ニ志アリ大

阪高等医學校ニ入リテ悉サニ医術ヲ研鑽シ業成リテ医ヲ郷里ニトシ刀圭ニ從事スルヤ其該博ナル蘊蓄ト卓越ナル人格手腕トハ忽チ杏林ノ偉材トシテ衆望ヲ荷フニ至リ拳ゲラレテ郡医師會長トナリ懸医師會代議員トナリ更ニ日本医師會代議員ノ要職ヲオビテ医界ノ為メ尽瘁シ現ニ本懸選出政友會所屬代議士タリ然シテ君ハ一面本懸漁業ノ先達ニシテ夙ニ南洋漁業進出ニ着眼シ一身ヲ挺シテ扁舟ニ棹シ遠ク南洋蘭領アンボイナ市ニ渡リ地ヲ相シテ國家ノ一大漁場ヲ開發スル等君ノ行藏郡ヲ拔ケリ良医ハ國ヲ医ステウ不拔ノ信念ヲ以テ終始一貫霸業ニ勇往邁進シ入リテハ郷党漁業ノ向上發展ニ献身的努力ヲ拂ヒ以テ後進ヲ指導誘掖シ出テハ國家事業ノ為メ赤誠ヲ尽シテ餘蘊ナシ其功績ヤ誠ニ顯著ナリト謂フベシ

君齡未ダ五十有八尚前途春秋ニ富ミ君ノ手腕ニ待ツベキモノ頗ル多シ、然ルニ壯圖半ニシテ不幸病魔ノ襲フ所トナリ遂ニ藥石効ヲ奏セズシテ長逝セラル誠ニ悲痛ノ極ナリ然ルト雖モ命ハ天ナリ君ガ遺セル功績ハ永久ニ滅却スルコトアラジ遺業モ亦繼承セラレテ益々繁榮シ君ノ素志ニ副フモノアラン君以テ冥スベシ本日茲ニ告別ノ式ニ告別ノ式ニ列スルニ當リ在リシ日ノ君ノ面影ヲ追懷シ愁嘆禁スル能ハズ聊力蕪辭ヲ聯ネテ弔詞トス

希クハ在天ノ英靈來リ饗ケヨ噫々

昭和八年九月十六日

大阪帝國大學医学部學友會幹事 樋渡吉治

⑪鹿兒島新聞社長 児玉實良

弔詞

衆議院議員原耕君萬里ノ蒼溟ヲ踏破シテ蘭領アンボイナニ到リ大ニ宿昔ノ志ヲ伸バサントシテ不幸病ヲ獲テ逝ケリ、

實二昭和八年八月三日也越ヘテ月餘遺骨南洋ヨリ還ル於是テ枕崎町ハ町葬ノ禮ヲ以テ、君ノ遺骨ト君ガ未死ノ英魂トヲ葬ラントス

哀シイ哉君ハ西南方ノ人大阪高等学校醫學校ノ出身ニシテ醫ヲ以テ業トナセリ然レドモ資性豪宕ニシテ不羈志常ニ君國ニ存シ又タ功名ヲ絶域ニ立ツルノ意アリ、家居シテ刀圭ヲ業トスルヲ屑シトセズ遂ニ地方公共ノ事ニ盡力シ青年政客ノ名高シ、後選ハレテ衆議院議員タリ、日本ノ國策ハ南進ニ在リ又タ經濟上ノ遺利ハ海洋ニ存ストナシ專ラ南洋ヲ説キ又タ漁業立國策ヲ高調セリ而シテ徒ラニ空論ヲ以テ満足セズ躬行實踐シテ其ノ利益ヲ示シ國民ノ迷夢ヲ覺破センコトヲ期セリ、即チ百噸ニ充タザル三小船ヲ率イテ躬力ヲ黑潮ヲ乗切リ、南溟萬里ノ外ニ新魚礁ヲ發見セリ是レ決シテ口舌ノ徒ノ能クスル處ニアラズ、其事ヤ雄壯ニ其志ヤ悲痛ナリト言ハザル可カラズ、而力モ君ノ此ノ業ヲ興ス決シテ一路平坦ナラズ、山複水重、路ハ峻險ヲ極メ路窮シテ又タ道スルコト幾回ナルヲ知ラズ其間ニ於ケル君ノ苦心慘愴ハ有心人ヲシテ淚滂沱タラシメタル者アリ、然レドモ君ハ一難ヲ經ル毎ニ其志益々堅ク遂ニ有力ナル後援者ヲ得テ再ビ壯途ニ就キ、此ノ行必ズ獲ル所ノ多キヲ期シタリキ、而シテ蘭國官憲モ亦タ之ヲ認識シ、君ノ經營セル各般ノ事業ハ着々進捗シツゝアリシニ、何ゾ料ラン、一朝ニ□ニ冒サレ其病遂ニ起タズ雄圖ヲ空シク南溟椰子樹蔭ニ葬ラントハ嗚呼哀シイ哉蓋シ君ハ漁業ヲ事トスルモ其志ハ単一ノ漁業ニアラズ他ニ幾多經綸ノ存スル者アリ遂ニ之ヲ大用セズシテ逝ケリ豈國家ノ損失ニアラズヤ

語ニ曰ク下醫ハ病ヲ醫シ、中醫ハ人ヲ醫シ、上醫ハ國ヲ醫スト、君ノ如キハ豈上醫ニアラズヤ今ヤ時局多難ニシテ專ラ人材ヲ要スル時、料ラザリキ此ノ有用敢為ノ材ヲ失ハントハ、

予ハ本日ノ送葬式ニ際シテ大ニシテハ國家ノタメニ其材ヲ失ヒタルヲ哭シ小ニシテハ一家ノタメニ其主人ヲ失ヒタルヲ哀シミ抑モ亦タ本懸支部トシテハ政界中堅ノ人物ヲ失ヒタルヲ惜シミ眼ヲ南方ニ馳スレバ煙浪蒼茫此ノ恨ミ綿々ト

シテ盡キル時ナシ嗚呼哀シイ哉謹ミテ弔ス

昭和八年九月十六日

立憲政友會鹿兒島縣支部長 鹿兒島新聞社長 兒玉實良

⑱ 鹿兒島朝日新聞社長 藤武喜助

吊詞

故衆議院議員原耕君曩ニ雄圖ヲ抱イテ南洋漁場開拓ニ從事シ業績將ニ緒ニ就カントス偶々病魔ニ冒サレ波濤萬里ノ異域ニ不歸ノ客トナル痛惜比ナシ

君性来不羈高邁ニシテ大志アリ醫ヲ業トスルモ常ニ我力国水産業ノ振興ヲ率先主唱シ、代議士ニ挙ゲラレテ国利ノ外亦餘念ナシ先年扁舟ヲ御シテ自ラ南洋漁場探見<sup>マ</sup>ノ壮挙ヲ企テテ視聽ヲ集ム君コノ探見<sup>マ</sup>ニ依リテ確信ヲ得再起シテ昨年壯途ニ上リ遂ニ職ニ殉ス功業既ニ燦タルモノアリ永ク後世ヲ裨益スベク且ツ異邦ノ土ニ化スルハ蓋シ君ガ胸中ニ秘メラレシ平素覺悟ナレバ亦以テ本懷トスルニ足ラン唯君ノ逝去ニ依リコノ国家的事業ノ挫折ヲ惧ルルト雖後進必ズ素志ヲ継キ君ニ酬ユルトコロアラン願ハクハ英靈トコシヘニ圖南ノ守護神トナリテ冥センコトヲ

昭和八年九月十六日

鹿兒島朝日新聞社長 藤武喜助

⑲ 枕崎町青年団代表 枕崎青年會會長 丸谷良一

弔詞

維時昭和八年九月十六日衆議院議員從六位原耕先生ニ對シ町葬ノ禮ヲ以テ其ノ葬儀ヲ執行セラル、ニ當リ枕崎町青年團ハ謹シンデ故原耕先生ノ靈ニ弔詞ヲ捧グ

先生歿年ノ持論タリシ南進主義、南洋漁場開拓ノ為メ第三回ノ南征ノ途ニ上ラレタルハ去ル昭和七年十二月三日ナリキ、越エテ昭和八年八月三日、先生溘焉トシテ逝カル、ノ飛報來ル、我等其ノ眞偽ヲ疑ヒツ、アリシニ今ヤ先生ノ御逝去ハ嚴然タル事實トシテ葬送ノ今日ヲ迎フルニ至レリ、風寒キ西突堤上ニ於テ別盃ヲクミテ其ノ成功ヲ願ヒシニ、思ハザリキ僅カニハケ月ニシテコノ悲報ヲ聞カントハ、嗚呼悲シキカナ、

漫リニ微笑ムコトモナカリシ其ノ面影、キツトヘノ字ニ結ンデ開カザル唇、既ニシテ一度開カンカ、侃々諤々ノ論出デテ盡クルコトヲ知ラズ、嗚呼先生ノ音容未ダ生キ生キトシテ眼前ニ空白タルニ、再ビ接スルコト能ハザルナリ、

嗚呼悲シキカナ、先生邊幅ヲ飾ラズト雖モ其ノ中ニ犯スベカラザル威嚴アリ、事ニ當リテハ即チ純正公平、貫力ズンバ已ムコトナシ、惡ヲ責ムルノ念一步モ譲ラズ、然カモ又一面徹頭徹尾、情ノ人、熱ノ人タリキ、恵マレタルオヲ有シツ、モ家貧ナルガ故ニ進學シ得ザル秀才ガ先生ノ義ト俠トニヨリテ初メテ上級ノ學校ニ學ブヲ許サレ今ヤ國家有為ノ士トシテ社會的ニ活動シツ、アルモノ數多アリ、又命且タルニ迫マルモ家貧ナルガ故ニ藥石ノ恵ミヲ受クル能ハズ懊惱ノ極自暴自棄トナルヲ自ラ進ンデ診察投藥シ為メニ貴重ナル生命ヲ助ケラレタモノ又毎マ拳マニ暇アラザルナリ、カクノ如キ義俠ノ士、慈善ニ富メル先生ノ輝カシキ存在ハ如何ニ郷土ノ我等青少年ニ深キ感銘ト教訓トヲ与ヘシモノカ、今ヤ崇拜スル原耕先生ナシ、嗚呼悲シキカナ籲ツテ先生終世ノ目標タリシ南洋漁場開拓事業ヲ見ルニ時殆タカモ國家難ノ際國防的見地ヨリシテ先生ノ權利ヲ有セラレシ蘭領南洋ガ如何ニ有望ナル海軍策源地ノ一ナリシカハ軍事當局者ヲシテ絶大ナル後援ヲ為サシメタルニヨリテモ知ルヲ得ベクコノ一事ヨリシテモ先生ノ事業ガ單ナル一漁業家ノ事業ニアラズシテ國家的大事業ナリシヲ認スルモノト言フベシ又漁業的見地ヨリコレヲ見レバ先生歿年ノ苦心成リテ漸ク

發見セラレシ「アンボイナ」近海ノ漁場こそ世界最良最大ノ漁業ナルコトハ農林省及ビ漁業専門家ノ夙ニ認ムル所ニシテコゝニアリテ専心漁撈及ビ製造ニ従事シテ無限ノ寶庫ヲ開カントセラレシ先生ノ事業ハ國家の否世界の大事業ナリト言フモ過言ニ非ラザルナリ、コノ達眼ノ士、実行ノ王者我等郷土ノ青少年ガ衷心ノ信賴ヲ捧グル原耕先生今ヤナシ、嗚呼悲シキカナ、先生ハ其ノ事業漸ク緒ニ就キ着々トシテ周到ニシテ遠大ナル計畫ヲ進メツゝアラレシガ不幸ニシテ中道ニテ挫折セラル、自ラ求メ自ラ開拓セラレシ素懷ノ地ヲ墳墓ノ域ト定メテ遺骨ヲ埋メ千載ノ後マデ残ラル、ハ或ハ本懷ナリト雖モコノマゝニテハ決シテ先生ノ眼ハ閉ヂルコトナカラン、即チ先生ト最モ深ク、先生ヲ最モ崇拜シ先生ヲ常ニ信賴セシ我等郷土人ガ先生ノコノ大遺業ヲ承繼シテ大成スル時こそ先生ガ心カラ微笑マレテ眼ヲ閉ヂラルゝノ時ナラン、嗚呼我等努メンカナ、實ニ先生ノ遺業ヲ繼グコトこそ先生ヘ對スル御恩報ジノ方法ナラン、我等ノ崇拜シ我等ノ心カラナル信賴ヲ捧ゲシ原耕先生今ヤナシ、嗚呼悲シキカナ、コゝニ一文ヲ草シテ謹シンデ靈前ニ捧ゲ先生ノ冥福ヲ念ゼントスルモノナリ、

昭和八年九月十六日

枕崎町青年團代表 枕崎青年會長 丸谷良一

②南洋協會調查囑託 和田儀太郎 (蘭領東印度アロー島在住)

(1)「鹿児島県學務部長↓枕崎町長への文書」

八社第七〇三號

昭和八年九月十三日

學務部長 (印)

枕崎町長殿

文書送付ノ件

蘭領東印度アロー島ドボー在住和田儀太郎ヨリ別紙の通「原先生ヲ悼ム」ヲ送付越候ニ付右文書送付候條可然御取計相成度候

(2) 「和田儀太郎↓鹿兒島県庁への手紙」

蘭領東印度アロー島ドボー

和田儀太郎（印）

発第一〇九號

鹿兒島懸廳社界課御中

拝啓 未ダ御拝顔ヲ得ズ候得共炎暑之候諸賢愈々御勇健ノ段奉賀□、交通不便ノ僻地ノ事トテ未ダ詳細ノ通信ヲ受ケザルモ、此度貴懸出身ノ原先生ニハ「アンボイナ」ニ於イテ（アンボイナト当地トハ約五百哩ヲ隔ツ）長逝セラレ□趣キ、通電ニ接シ、□ニ付テハ、我が政界ニ数多人アリト雖其ノ多クハ机上ノ空論ニ耽リ、先生ノ如ク、身ヲ以テ実地業ニ当タルノ士幾名アラン、昭和聖代ノ今日異郷ニ於ケル我等同胞ノ龜鑑トモ仰グベク茲ニ別紙愚筆ヲ以テ、先生ト私ノ初対面ヨリ、卑見ノ一端ヲ認ム識者許スコトヲ得バ御加筆ノ上、先生ノ志アル所ヲ公ニセラルレバ幸ヒ此レニ過ギズ 茲ニ謹ンデ哀悼ノ意ヲ表ス

敬白

昭和八年八月十日

(3) 「和田儀太郎の弔文」

原先生ヲ悼ム

南洋水産事業開發努力ノ偉人、鹿児島懸枕崎町ノ出身、医学士、代議士、原耕氏ノ真相ニ付テハ知ルコト能ハザルモ、氏ハ湧ク母國愛ヨリ、肩書トハ全然不合理ナル、一漁夫ノ身トナリ、昭和元年鹿児島水産試験場ノ千代丸ト云フ發動機船ヲ自ラ操縦シテ、太平洋縦斷、当蘭領東印度ニ漁場調査ノ壮挙ニ出テ、「ムロカス」群島ノ都市「アンボイナ」ヲ根拠地トシテ、此處ニ假事業場ヲ設ケ、漁撈、製造ノ兩部ニ分レ、試験調査ノ結果、約五百箱ノ鰹節ヲ製造、好成績ヲ上ゲテ、昭和二年三月帰朝セラレタル旨、私ハ全年四月帰國ノ途中、「アンボイナ」ニ寄港其砌全地ノ邦人ヨリ確聞、帰國後更ニ大阪朝日新聞ニテ該記事拝見、私ハ全年帰南昭和五年再ビ帰國全六年一月帰南「セレベス」島「マカサ」市ニ滞在中、全地ノ邦人会長、和田治太郎氏ヨリ、原先生ハ今回単独ニテ「ムロカス」群島地方ヲ巡遊視察シテ、最近帰國セラレタル旨承ウタ、私ハ二月一日和蘭郵船ニテ、「マカサ」出帆全四日「アンボイナ」着、此時此處ニ我ガ農林省ノ白鷹丸碇泊中ニテ、全船ハ数多ノ水産学校訓練生ヲ乗セ、実地調査、帰朝後其筋ニ報告、其結果今回改メテ派遣スベキ人格者トシテハ、以前経験アル、原氏ヲ措キテ他ニナカラント物語リ、全地ノ在留邦人モ亦先生ノ再挙渡南ヲ期待シテ居ウタ、其後全年南洋協會雜誌四月号ニテ先生ノ実地調査談拝承、茲ニ始メテ氏ノ湧ク母國愛ト、其雄大ナル志ノ一端ヲ解スルコトヲ得マシタ。

果セル哉、氏ハ九十餘名ノ薩摩健児ヲ率ヒ、三隻ノ發動機漁船ニテ、昨年十二月五日大阪出帆<sup>3</sup>、爪雨ヲ凌ギ、怒濤ト戦ヒ、一路南洋ニ向ヒ、全月廿八日「アンボイナ」着事業ノ設備中、鰹釣ノ餌ノ鰯群集地、調査ノ傍ラ、永野製板工場ニテ板買ヒ求メノ為メ一隻ノ發動機船ニテ、去ル二月十二日、午前十時当「ドボ」ニ寄港、茲ニ先生ト私ハ初

3 原耕がこの時に出發したのは十二月三日。鹿児島からアンボンへ向かっている。

対面ヲ得マシタ、当時当地ニハ「ヒステリー」ヲ病メル、一女性ノ邦人アリテ、先生ニ受診ヲ乞ヒタルガ、直チニ快  
諸セラレ、私ハ同伴患者ノ宅ヲ訪ヒタルニ、先生ニハ医師或ハ代議士トカノ氣高キ見識更ニナク、患者ニ向ヒ自分ハ  
一漁夫ノコトナレバ、御見掛け通り見苦シキ服裝ナル上、加フルニ永ノ航海ノ為身體モ汚レ、失禮ナガラトノ御挨拶  
ニハ実ニ恐縮致シマシタ、其レヨリ患者ノ血族關係、既往症、現病歴等ノ問診ヲ終リ、診察セラレテ、懇ロニ慰安ノ  
物語リ、且ツ摂生養生消毒ニ付テ注意ヲ與ヘラレ、終リニ臨ミ此異郷ノ地ニテ、今日此患者ヲ診察スルモ何カノ因縁  
ナラント、宗教上ノ見地ヨリ、幽玄ナル一言ニハ実ニ感激致シマシタ、氏ハ全日午後十時出帆「アンボイナ」ニ帰港  
セラレタ、其後全地ヨリ来リタル和蘭國籍ノ一支那人ハ、私ニ向ヒ、自分ハ一日原氏ノ事業場ヲ訪問セシガ、氏ハ他  
ノモノニ用事ヲ命ズルト其人ハ直チニ駆足動作ニテ其場ニ到リ、呼びタル時モ亦同様ノ動作ニテ、氏ノ直前ニ来リテ  
起立シテ命ヲ待ツ、日本人ハ仕事ヲナスニ何故彼称ニ走ラ子<sup>ママ</sup>バナラヌカト尋子<sup>ママ</sup>タ、私ハ以為ラク、彼異人種ノ不審ハ  
尤ナリ、フト思ヒ浮ミタルハ我ガ軍隊生活當時ヲ追想シテ、切ニ感ズル所アリ、先生ハ古今ノ英傑、大西郷公ノ出身  
地ニ生ヲ享ケ、天下ニ名聲ヲ轟カシタル、薩州武士ノ血脈トハ云ヒナガラ、御國ヲ思フ誠心ハ、事業ノ傍ラスクマデ  
全懸人ヲ指導訓練セラル、カト思ヒマシタ、其異人種ニハ話ヲ轉シテ適當ニ聞吞致シマシタ

熱々思フニ、氏ノ非凡ナル一例ハ失禮ナガラ、原先生ハ大阪医大ノ出身ニテ、奥サンモ又女医デアルトノコトデア  
ル、普通人ナレバ兩人共ニ医師ナレバ、何處ニ行クモ御医者様デ生活ノ不安ナク、又政黨ニ入レバ代議士トシテ、將  
来大臣や次官ノ椅子ヲ狙フハ此レ凡人ノ常ナリ然ルニ先生ニハ医業ヲ専ラ奥サンニ任せ、政黨ノ椅子ニ心ヲ置クコト  
ナク、一漁夫ノ身トナリ、遠ク異郷ノ地ニ来リ、暑熱ト戦ヒ爪雨ヲ凌ギ波浪ニ洗ハレ、幾多ノ危険幾多ノ辛酸ヲ嘗メ、  
斯ル事業ニ従事セラル、ハ、満身総テ膽ナラン、先生ニハ常ニ聖旨ヲ奉戴シ、湧ク母国愛ヨリ海外發展移民ノ移殖ヲ  
目的トシ、横ニハ空間的ニ何處マデモ限りナク、縦ニハ時間的ニ何時マデモ限りナク、所謂十方ニ遍滿シタル事業ヲ

後世ニ残サンガ為ナリシモノナラン、

惟フニ先生ノ堅忍不拔ノ精神ハ皇國ノ為メ我ガ忠勇ナル將士ノ戦場ニ於ケル人ト何ゾ異ナル所アラン、又我ガ政界ニ数多人アリト雖モ、其ノ多クハ机上ノ空論ニ耽リ先生ノ如ク実地業ニ当タルノ士幾名アランヤ、氏ハ当地ニ寄港セラレタル時同伴ノ人々ノ談ニヨレバ、原先生ハ将来僕ノ墳墓ノ地ハ「アンボイナ」デアルト云ハレタトノコトヲ耳ニセシハ今ヲ去ルコト僅々百餘日前ノ二月十二日デアッタ、

折柄本月五日午前十時「アンボイナ」日本人會長北野國松氏ヨリ原氏急死ノ通電ニ接シ、在留邦人誰カ驚カザザルモノナカランヤ、私ハ早速当地ノ成功者、永野角十氏ヲ訪ヒタルニ原氏ハ当地ニ御出ニナラレタル以前ヨリ、稍ヤ健康ヲ缺ケル様ニテ同伴ノ人々ハ常ニ御無理ヲセラレヌ様ニト、御勸メスレドモ、勇敢ナル氏ハ敢テ意ニ介セズ活動セラレマスト、一人ノ從者ハ語ツタ依リテ其當時ヨリ多少健康ヲ害シテアッタモノデハアルマイカト永野氏ハ語ツタ、

今ヤ世界各地黒雲渦卷キ、我ガ帝國ハ外ハ外交問題ニ悩ミ内ハ思想ノ改荒シテ有為ノ人ノ立ツ時ニ、此ル偉人ヲ失ヒタルハ我ガ國ノ為メ惜ムベキ次第、回顧スレバ去ル二月十二日、先生ト私ハ初対面ニテ又最後ノ分レデアッタ、今此異郷「アンボイナ」ニ残レル九十餘名ノ薩州健児ハ親ニ離レシ雛鳥ノ嗚呼悲哉 即刻弔電(原氏逝去哀悼)ニ不堪、此旨一同ニ御傳ヘ頼ム)ヲ日本人會長ニ宛テ、發セリ、惜哉 先生ハ業中ニシテ世ヲ去リタリト雖モ、南洋水産事業ノ開發ニ貢獻セル所少ナカラズ、氏ノ長逝ヲ惜ムモノ豈独リ先生ノ一族及ビ全懸人ノミナランヤ、願ワクハ英魂永ニ安カナランコトヲ

國の為<sup>危</sup>□浪<sup>判断不能</sup>□戦ひ倒れても

功績は高き南洋の空

昭和八年八月十日

蘭領東印度アロー島駐在

南洋協會調査囑託 和田儀太郎（印）

② 西南方村泊区民総代 鹿島國治

弔辞

謹而泊區民ヲ代表シ恭シク衆議院議員從六位原耕君ノ靈前ニ寸誠ヲ表ス噫悲哉君生マレテ穎悟ニシテ剛直夙ニ大阪醫學校ニ學ビ業成リテ神戸市醫ニ擧ゲラレ幾何モナク米國ニ留學スルコト年アリ歸リ來リテ枕崎ニ開業セリ患者屢至シ門前市ヲ為ス君選バレテ郡醫師會長トナリ大日本醫師會代議員トナリ常ニ刀圭之道ヲ察カニスルコトニ努メ枕崎村會議員ニ選バレ村治町政ニ貢獻スルコト多カリキ君蛋クヨリ國勢ノ南進スベキヲ想ヒ傍ラ鰹漁業ヲ營ミ船員ノ南洋航行ヲ訓練センコトヲ計リ率先シテ大型船ヲ經營シテ時人ヲシテ目ヲ聳テシムルモノアリキ君自ラ衆ヲ率井琉球台灣比島ヲ經テ南洋ニ至ルモノニ回其ノ間焦心苦慮漁場ヲ探検シテ大ニ為スアルノ地ナルヲ確メ之ヲ大成スルニハ身自ラ國勢ニ参加スルノ要アルヲ思ヒ衆議院議員ニ當選スルコトニ回大ニ其ノ所見ヲ宣揚主張スルニ努メタリ國家亦君ガ熱心眞實ヲ嘉ミシ廟議ヲ盡シテ大ニ力ヲ致サントスルニ至レリ昨昭和七年臘一日君勇躍シテ第三回ノ南洋航ヲナシ銳意準備ニ執掌シタリシガ不幸ニシテ去ル七月下旬病ヲ得越エテ八月三日溘然不歸ノ客トナラレ茲ニ本日枕崎町葬ノ禮ヲ以テ葬送ノ儀ヲ行ハルゝコトナリ又哀悼焉ゾ堪フベケンヤ噫呼悲哉

然リト雖君ガ赫々ノ功勞ハ之ヲ嘉ミシテ從六位ニ叙セラレタリ洵ニ君ガ寵光ニシテ又家門ノ榮譽大ナリト謂フベキ乎君以テ瞑スベキナリ

恭シク血泣弔辞ヲ捧ク偲々ノ衷情希クハ來リ饗ケ給ヘ

西南方村泊區民總代 鹿島國治

②更正会 總代 入佐香一

吊詞

維時昭和八年九月十六日我町ハ町葬ノ禮ヲ具ヘテ故衆議院議員南洋漁業開發創始者從六位原耕先生ノ葬儀ヲ営ムニ當リ日頃先生ノ薰陶ヲ受ケシ更正會會員等敬デ文ヲ作り先生ノ靈ニ告グ

嗚呼先生ハ一片憂世愛國ノ士夙ニ政治家ニ志サレ衆議院ニ席シ國家社會ニ盡サレシ事績幾何讎テ亦我鯉漁業更正ノ為メ意ヲ致シ遠ク南洋ハ蘭領セレベス、アンボイナ<sup>ボイナ</sup>ノ地ニ再參ノ探検ヲ為シ愈々確信ヲ得其企業既ニ表ルモノアリキ然ルニ今ヤ其大計畫緒ニ付キ偉大ノ抱負實現中バニシテ不幸南洋ノ地ニ不慮ノ急變ノ凶ニ逢フトハ命ナリト雖モ数奇ノ一代人トシテ愴然ノ憾ニ堪ヘサラシム嗚呼先生ノ胸中モ亦如何バカリナリシナラム然モ先生ノ經營ヤ獨リ鯉漁ノミニ止ラズ南洋一帯ニ於ケル一般漁業ハ更ナリ各般ノ施設亦悉ク先生ノ明晰ナル頭腦ト敏活ナル手腕ニ依リ企畫サレ居タルニ至リテハ尚一層中逝ノ悲愴ヲ深カラシムルナリ我等同志亦今昔ニ俯仰シテ愴惋尤モ深シ

先生生前勇剛氣魄ヲ以テ世ニ鳴ル我等同志ノ採ルベキ道ヲ示シ指導セル一人トシテ先生ノ如キ士ヲ有セシハ我等若人ノ尤モ力強氣賴ミナリキ

嗚呼哀シイ哉自信ニ厚ク所見博ク創思ニ富メル勁世家ニシテ自己ノ奉養ニ淡泊タリシ一代ノ勁節ノ士嗚呼是レ我等ノ尤モ崇敬ノ士タリキ嗚呼斯ノ勁節ノ士ヲシテ六十五迄ノ歳ト健在トヲ與ヘシナラムニハ其亦國家社會ニ貢獻スルコトノ如何ヲ尋大ナリシ天何ゾ此偉人ヲ奪フニ事ノ速カナリシゾ音容髣髴トシテ我等ノ耳目ニ在ルモ先生既ニ亡シ嗚呼何ゾ痛惜ニ堪ヘン先生生前云ハレシ南洋漁業開拓ハ原中逝ストモ國家ノ為メ誰カ之ヲ達成スベキハ必定ナリト如何ニ

モ然リ必ズ近キ将来ニ於テ成果表ルベシ而シテ先生ノ名中外ニ宣揚サルベキ秋モ亦遅カラジ

希バ先生生前ノ勇猛心ト根氣トヲ以テ彼地南洋ニ残セル遺業ニ一層ノ守リヲ致シ力ヲ添ヘラレンコトヲ

昭和八年九月十六日

更正會 総代 入佐香一

### ②③ 鹿児島高等農林学校図南会

弔辞

雄圖ヲ懷テ南洋ニ趣カレ事半ニシテ長逝セラル痛惜何ゾ堪ヘン茲ニ謹テ弔辞ヲ呈ス

昭和八年八月十日

鹿児島高等農林学校圖南會

### ②④ 樺山新介

吊詞

維時昭和八年八月原耕君南洋遠征中突如永眠サレタルハ誠ニ痛惜哀傷ノ至リ悲風慘雨嗚呼悲哉顧レハ君力南洋開拓ノ  
壮拳ヲ企ルニ當リテヤ身自ラ萬里ノ波濤ヲ蹴リテ探險研究ヲ極メシ結果大ニ有望ナルヲ認メ政府當路者ヲ始メ東京  
阪間ヲ馳驅シテ此ノ事業ノ必要急務ナルヲ訴シカバ何レモ皆君力熱烈ナル壮拳ニ感激シテ政府ヨリモ多額ノ補助ヲ與  
エ大阪ノ實業家岸本組ノ如キハ痛ク此ノ壮拳ニ同情セラレ番頭ヲ派シテ親シク實地ノ視察ヲナシムルアリ朝野官民  
歛呼ノ裡ニ準備ヲ整工艇ハ千代子夫人ノ名ニ因ミテ第一千代丸ト命名シ萬歳聲裡ニ勇躍征途ニ就キタル當時ノ光景ハ

今尚目睫ノ間ニ迫リ来ルヲ覺ユ

原君ハ始メ刀圭家トシテ国手トシテ久ク南薩病院長<sup>4</sup>タリシガ原君ハ殆ト先天的政治家ノ転職ヲ有セシヲ以テ病院ト家政ハ千代子夫人ニ一任シテ顧ミス尠年政界ニ飛躍セシ最後ニハ余勇余リテ水産界ニ活躍シ今ヤ水産界の至宝ト絶讃サル、ニ至レリ原君ガ刀圭家トシテ政治家トシテ將タ實業家トシテ善處シタルハ衆評ノ一致スル處一人ニシテ三面六臂ノ腕ヲ揮フガ如キ原君ノ如キハ蓋稀也

数年前岸本組トノ盟約破レ一時事業ニ一頓挫ヲ来セシモ君力意氣ノ豪ナル、意思ノ強固ナル、氣宇ノ潤活ナル燃ルカ如キ熱誠ハ決シテ斯ル一小事ニ屈スルモノニアラス益勇ヲ鼓して踴進ニ次クニ踴進ヲ以テシ幾多ノ波瀾ト戰ヒ幾多ノ難関ヲ突破シテ南洋ニ於ケル第二ノ「ロビンソン」トナリ今ヤ南洋新領土ノ霸王タラントスルニ當リ天ハ如何ナレハ斯ル勇士ヲ奪フヤ天道是乎非乎悲風慘雨噫悲哉

今春千代子夫人ノ寄セラレタル賀狀ノ端シニ始メテ南進セシ紀念ノ洋子ハ最早七歳ニナレリ国家ニ對シ將タ皆様方ニ酬ル事業ノ貫徹モ成功モ段々近寄リ来レリトノ快報ニ對シテハ歡天喜地遙カニ太白ヲ浮ベテ快哉ヲ絶叫シタルニ何ゾ圖ラン病魔ノ襲フ處トナリ千里異域ノ鬼トナリ今ヤ幽明處ヲ異ニシテ亦相逢フヲ得ス悲風慘雨嗚呼悲哉

然リト雖モ始メヨリ君ト志ヲ全アシ君ニ随伴シテ死生ヲ誓ヒ君力指導ノ下ニ努メタル二十数名ノ壮夫ハ今後一層ノ熱誠ト勇氣ヲ揮フテ君ノ遺志ヲ繼キ立派ニ事業ノ完成ヲ期スル結束成ルト共ニ市村本懸知事ハ君力生前ノ勲功ニ對シ叙位叙勲ノ申請中ナリシカ畏リ邊リニテハ本月土日特志ヲ以テ位記追贈アラセラル之レ單リ君ノ光榮ナルノミナラス又實ニ原家ノ至慶至福ノ瑞祥ト云サル可ラス君宜ク冥シテ可ナリ謹テ英靈ヲ慰メ併テ御冥福ヲ祈ル

昭和八年八月

4 南薩病院長とあるが、おそらく原が個人的に経営していた原医院のことだと考えられる。

### 三 〔資料二〕 徳富蘇峰による撰文

原耕君墓誌

海軍大將山本英輔表題

自ら其志を立て自ら其事を行ふ而して前人未發の業域を開拓し利用厚生の基を開くこれまた男兒快心の事と謂ふ可し君は明治九年二月薩摩泊邑に生れ長じて醫を學び枕崎町に開業す業大いに行はる而して輿望を負ひ衆議院議員に當選せらるゝ二回また夙に水産の業に志し晩年自ら蘭領東印度ニューギニア木曜島等を探險する數回遂に最好の基地アンボイナを發見す即ち自ら漁船隊を組織し枕崎より十七晝夜を経て同地に達し盛に鯉漁業を經營す其の成果著名なるものあり然も不幸瘴疫に罹り昭和八年八月三日空しく其の雄魂を海外の孤島に埋む其の志また悲むべし仍て遺骨を三分し其の一をアンボイナの和蘭舊砲臺趾に埋む君會て此の地に至り其の風光の絶佳なるを見て曰く若し萬一の事あらば我が遺骨を此に埋めんと即ち其の意志を行う所以なり其二を町葬を以て枕崎町松尾墓地に其三を泊邑に於ける先塋の域に埋め各々其の墓碑を建立せり惟ふに我國古來圖南の長策を唱ふる者鮮からず然も此を實行し遠く赤道以南に漁船隊を進むるものは實に君を以て嚆矢となす君の功も亦偉ならずや  
仍て茲に君の墓に誌し奮發興起君の志を紹成する後の來者を俟つ

昭和十六年八月

蘇峰徳富正敬撰

方竹梅園良正書